

アラブ首長国連邦（UAE）の高等教育事情 —教育に多額を投資して国民の高学歴化を実現—

元UAE国立ガイド大学学生生活課日本語、空手道講師（2007-2012） 松原 直美

MATSUBARA Naomi

キーワード： 高等教育、アラブ諸国、多国籍社会

はじめに

アラブ首長国連邦（United Arab Emirates、以下 UAE）は、日本においてもメディアの報道などを通して広く知られるようになってきた。しかし注目を集めているのは商業都市ドバイに完成した世界一高いビルや贅を尽くしたリゾート施設である。生活水準や経済の発展を示す国際的なランキングで UAE が世界の上位グループに位置していることはあまり知られていない。

例えば、国際連合が発表する「人々の生活の質や発展度合いを示す人間開発指数」において UAE は「指数が非常に高い国」に分類され、アラブ諸国のなかで最もランクが高い¹。アメリカのコロンビア大学が 2012 年にまとめた世界幸福度レポート²でも対象国 156 ヶ国のうち UAE は 17 位に選ばれ、他のアラブ諸国を抜き出ている。

UAE は石油、天然ガスを豊富に有し、日本にとってはサウジアラビアに次ぐ第 2 位の原油輸入先国である。経済分野以外は希薄な両国関係において、UAE と良好な関係を維持・発展させていくために UAE 社会を正しく理解し、UAE 人との交流を深めることは日本にとって重要だと考えられる。その手段として学術を通じた交流を推進することは効果的であろう。

本稿では UAE に独特な教育の特徴を鮮明化した上で高等教育に焦点をあて、教育を通じた日本との接点をさぐりたい。

2. 教育の理念と基盤

UAE は 2010 年末からはじまった「アラブの春」と呼ばれる一連の政治改革運動が起こらなかったほとんど唯一のアラブの国であり、政治は安定している。UAE は 1971 年にイギリスの保護領から独立した小さな 7 首長国が連合して建国された。以来 7 人の首長が政治の中枢を担い、石油を大量に産出するアブダビ首長国の首長が大統領を継承するという独特の君主制を採用している。国民が投票できる制限選挙と選挙で選ばれた議員が参加する議会はあるものの、現政治体制は民主主義には程遠い。ところが UAE 人は政権にとりたてて不満を抱かず、強いリーダーシップを持った首長たちを敬

¹2013 年 3 月発表のリストで日本は 10 位、UAE は 41 位。

<http://hdr.undp.org/hdr4press/press/report/hdr/english/> (p. 144.)

² 日本は 44 位。

<http://www.earth.columbia.edu/sitefiles/file/Sachs%20Writing/2012/World%20Happiness%20Report.pdf/>

愛している。

政治的安定と首長への忠誠心が生まれる拠り所は国の豊かな財力である。政府は化石資源から得られた収益金を道路や公共施設などの社会資本に投資し街を近代化した。国民に対しては課税義務を免除し、医療費ならびに公立教育機関の学費を幼稚園から大学まで無料にしている。国家公務員の給料や退職金もきわめて高い。政府の恩恵が国民に行き渡る要因として、国の面積が狭く国土のほとんどが砂漠であるため居住面積が限られていること、人口が100万人以下と少ないことが挙げられる。

独立当時より、政府は先進諸国へ追いつき追い越すことを目標としている。目標達成のため人材育成を重点項目として掲げ、国家予算における教育に大きな比重と金額を与えてきた。女性を男性の平等なパートナーとみなし女子教育にも注力し続けた。その結果、識字率は2000年代以降90%を超えている³。

教育制度は就学前教育（幼稚園）が2年、初等教育6年、前期中等教育3年、後期中等教育3年で、義務教育は初等6年である。貧困層がほとんど存在しないUAE人社会では義務教育への就学率もほぼ100%を達成している⁴。

3. 教育の特徴

UAEの教育は国の特殊な社会構造ならびにイスラム教という二つの要素に大きく影響を受けている。

社会構造の特徴は、UAE人より約8倍の数の外国人が居住している多国籍社会であることである⁵。外国人が多い主たる理由は二つある。一つは単純労働力を外国人で補っているため、もう一つはアラブ地帯におけるビジネスのハブとして世界中から企業を誘致し、各国のホワイトカラー層を居住させているためである。UAEでは英語がリングフランカとなっており、日々の生活でもUAE人は家で雇っているメイド、運転手などと英語での会話が必須である。また、産業立国として国民の英語力は欠かせない。

このため学校教育では英語に重きがおかれている。公立・私立ともに幼稚園から英語を習い、小学校にあがると理系の科目は英語で習う。英語教育に定評のある私立の小・中学校、高校は学費が高くて公立学校より人気がある。

2000年代以降はIT教育にも力を入れている。幼稚園の段階から私立・公立ともに教室にコンピュータが導入されつつある⁶。

さらなる特徴は教員が多国籍であることである。独立当時はUAE人の教員が乏しかったため、エジプト人、パレスチナ人、シリア人、イラク人などの周辺アラブ諸国人を教員として補充していた。ところが教育を受けたUAE人が増えた現在になっても、教員になるUAE人、特に男性は少なく、独立当時の状況が続いている。UAE人の教員が充実しているのは幼稚園と小学校のみである。高等教育レベルになると教員の国籍はさらに増え、欧州諸国やアジア諸国、南北アメリカなど世界中から教員が集まる。

道徳教育の根幹はイスラム教である。国民はほぼ全員イスラム教徒であるため、イ

³ <http://hdr.undp.org/hdr4press/press/press/report/hdr/english/> p. 170.

⁴ 同上

⁵ <http://www.uaestatistics.gov.ae/CensusEN/tabid/202/Default.aspx>

⁶ 松原直美. (2011). 「幼稚園」 細井長 (編) 『アラブ首長国連邦 (UAE) を知るための 60 章』 明石書店. p. 105.

スラムの教えを徹底し幼稚園からイスラム教について学ぶ。

イスラム教の「女性は見知らぬ男性と知り合わぬほうが良い」という教えに従い、UAEでは小学校入学と同時に男女はそれぞれ男子校、女子校に通うことになる。(私立学校では小学5年生以降に分かれることもある。)

また、イスラム教の「女性は身内の男性が同伴しない状況で行動することを避けるべき」という教えを忠実に守る家庭が多いため、海外留学をする女子は少ない。一方、多くのUAE人男性は高校、大学、大学院進学のため公費や私費で海外に渡る。留学は純粋な学究的理由より、国内外に人脈を作り将来のビジネスに役立てたい、と言う理由が多いようである。留学先はアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリアが圧倒的に多く、ドイツ、スイスなどが続く。財力と英語力に不自由しないUAE人が多いため、英語のプログラムがある教育機関には困難なく入学できるのである。

国民意識(ナショナルアイデンティティ)を育てる教育としてはイスラム教のほか、建国の経緯や首長たちの業績について幼稚園から学ぶ。

4. 高等教育

高校3年生の女子の95%、男子の80%が国内外の高等教育に出願する⁷。現今では国内の全大学卒業生のうち70%が女性であり⁸、女性の修士号、博士号取得者も増えている。

男子の方が進学率が低いのは、高校を卒業して就職する男子、または高校や中学を卒業したあと士官学校や警察学校に進む男子が少なくないからである。軍人や警官は社会的な地位が高く、給料も良いので男性には一定の人気がある。

UAEでは現在100に近い高等教育機関が存在するが⁹、国公立大学は3校(それらの分校をあわせて20校以上)である。国公立大学は男女のキャンパスが分離しているため、娘を持つ親の多くは子供を国公立大学に進学させたがる。私立大学は共学であり、UAEに居住する外国人子弟はたいてい私立大学に進学する。

1990年代以降インド、オーストラリア、アメリカ、カナダ、フランスなど外国大学の分校が増え、UAE人学生の進学の選択肢は広がっている。「アラブの春」が起こって以来、紛争地域を逃れてUAE内の大学に留学する周辺アラブ諸国の学生も増えている。

国公立大学進学のためにはCEPA(シーパ)という全国共通テストがある¹⁰。CEPAは英語と数学の2科目のみで、数学の点数はほとんど考慮されない。そのため日本のような受験戦争は無く、大学への入学は高校の成績が悪くなければ比較的容易である。しかし、国公立大学の授業は必修科目であるイスラム教とアラビア語の授業を除いて英語で行われるため、英語の苦手な学生は大学に入学してから英語集中コースを受講しなければならない。

大学で人気を集める学問は男女ともに経済活動に役立つ実用的な学問、すなわち経営、会計、ITなどである。男子にはエンジニアリングや建築学、女子には教育学やインテリアデザインも人気が高い。近年は医学、看護学、衛生学などが学べる専門大学

⁷ <http://www.uaeinteract.com/education/>

⁸ <http://www.uaeyearbook.com/yearbooks/2010/eng/> (p. 189)

⁹ http://www.britishcouncil.org/country_partnership_meeting_june_09_tne.ppt

¹⁰ http://ws2.moheer.ae/napo/Details_EN.aspx?str=CEPA

や学部も増えており、特に女子をひきつけている。

一方、イスラム教の「信仰の妨げになるものは避けるべき」という教えに従い、UAEでは芸術が振興されず美術大学や音楽大学、体育大学はない。哲学科や神学部も宗教的な制約から存在せずイスラム宗教学のみが存在する。法学部もイスラム法を中心に学ぶ。

教科とは別に UAE では国を挙げてリーダーシップ育成やアントレプレナー育成を重視している。このため、各教育機関では、社会で活躍する起業家の講演を聞いたり彼らと対談したりするワークショップが盛んに開かれている。

5. 教育の問題点

UAEは近年PISA（OECD生徒の学習到達度調査）とTIMSS（国際数学・理科教育調査）に参加している。結果はいずれも参加国の平均を下回るが¹¹、特に数学と科学の分野が不得手であることが露呈している¹²。

教育全般を通して、UAEでは暗記が重視され思考力、計算力は優れていると言い難い。これはイスラム教の聖典コーランを暗記する従来の教育方法が今でも影響を及ぼしている結果だと考えられる。QS世界大学ランキングではUAE最古の国立UAE大学が370位にランクされているのみであり¹³、今後の学業の発展が待たれる。

語学については、英語を重視するあまりアラビア語が満足に読み書きできない若者が増えている。この状況を危惧する政府は、学校教育や課外活動を通して若者がアラビア語に親しむ機会の拡充を図っている。

小・中学校、高校の教育現場では、自分の親よりも貧しい外国人教員を UAE 人生徒が見下す、外国人教員が UAE 人生徒を注意できない、などの好ましくない状況が発生している。このため UAE 政府は教員の UAE 人化を喫緊の課題として掲げている。

6. 日本への留学の問題点と課題

UAE人を含むアラブ諸国人は幼少時から日本のアニメや家庭用ゲームに親しんでいる。学校では、第二次世界大戦に原爆投下を受け焼け野原となった日本が国民の勤勉な努力により見事な復興を遂げたことを社会科の授業で学ぶ。2009年にはアラブの人気テレビ局で、日本人の優れた道德心を一ヶ月に渡り紹介した¹⁴。これらの要因により、日本に興味を持ち日本で学びたいと考えている若者はUAEに限らずアラブ一帯に少なくない。

日本の文部科学省（当時は文部省）によるUAE人のための大学奨学生制度は1990年にはじまった¹⁵。ところが奨学金に応募するUAE人は毎年片手で数えられるほどである。国によっては奨学生選抜試験が数百倍になる国もあることを考えると信じられない少

¹¹ http://nces.ed.gov/pubs2011/2011004_1.pdf (p. 46.)

¹²

<http://timssandpirls.bc.edu/data-release-2011/pdf/Overview-TIMSS-and-PIRLS-2011-Achievement.pdf>

¹³ www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2012

¹⁴ 2009年9月にサウジアラビアのmbc局でアラブ全域に放送された「ハワートル(思考)」というシリーズ番組。

¹⁵ <http://www.uaeinteract.com/japanese/default.asp?cntDisplay=295>

なさである。

UAEの高等教育省、国防軍、警察など、UAEの公的機関による日本への奨学金制度は、文部科学省が支給する奨学金より金額が高いため、こちらに応募するUAE人のほうがやや多いがそれでも少数であり、現在日本の大学、大学院に留学しているUAE人は40人強である¹⁶。

日本の大学や大学院のうち英語だけで卒業できる機関は少ないため、日本の大学はUAE人にとってハードルが高い。また、イスラム教徒用の食べ物（ハラールフード）を提供するレストランがきわめて少ないなど、イスラム教徒と馴染みが薄い日本に子供を送ることを躊躇する親は多い。

UAE人女性にとって日本留学の障壁はさらに厚く、女子固有の問題が発生する。例えば男性を避けなくてはならない彼女たちは男子禁制の女子宿泊施設を望む。宿泊施設の設備も、豚肉を扱う人と同じ台所で料理することを避けたがる、シャワー室は完全個室を望む、などの要望がある。

UAE人が日本で学びたいと考えている学問や事柄についても、受け入れ側は調査する必要がある。2012年に筆者が10-20代のUAE人男女約80人に「日本で何を学びたいか」という質問紙調査をしたところ、男女ともに「経営学」「エンジニアリング」「IT」など大学で学べる学問のほかに「アニメ、マンガ製作」「武道などの伝統芸能」「調理、製菓」「美容術」などが目立った。これらはおもに専門学校や私塾で学ぶ分野である。よって大学以外の教育機関とも留学生招致の連携をとる必要が生じてくる。

日本の大学を卒業したUAE人が本国に帰国しても、その能力が生かせるところがないという問題も存在する。日本留学経験者による組織も確立されておらず、UAEに帰国後はあまり日本と縁のない生活を送っている元留学生が多い。

UAEに留学する日本人学生は、日本に留学するUAE人留学生よりさらに少ない。1990年代後半から10年ほど、日本アラブ首長国連邦協会が独自の奨学金で日本人男女の短期留学者を送っていた。しかし、プログラムが終了して以来、わずか数校の日本の大学が短期の学生訪問、留学を実現させているだけである。大学によっては「アラブ＝危ない地域」と見なしUAEへの学生の送り出しに二の足を踏むこともあるようである。

さいごに

毎年6月、UAEの各大学では卒業式が開かれ、式には卒業生の家族がたいてい揃って参加する。式場では卒業証書を手にした娘とその母親、祖母の3人が感極まって抱き合っていて泣いている姿が必ず見られる。毎年繰り返される光景ながら見ている筆者も胸が熱くなった。祖母の世代の女性は学校に通った経験すらなく、母親世代の女性は最終学歴が小学校程度だが、娘の時代は多くが大学を卒業するようになったという、建国40年の発展を感じさせる1コマである。

UAEは短い歴史の中で多額を投資して教育を発展させ、砂漠の小さな集落の寄り集まりから「社会環境の整った国」と国際的に認められる国家になった。このUAEの発展経緯に我々が学ぶべき点は多い。同時にUAEが抱える教育や社会の問題について日

¹⁶ 日本アラブ首長国連邦協会よりヒアリング。2013年7月。

本の経験が生かせる点も多々あるだろう。

UAEは財政が豊かであることから「UAE人は勉強しない、働かない」という間違ったイメージを持たれている。筆者もUAEに行くまではそのように想像していた。

ところが地元の大学で男子、女子それぞれの学生や教職員と過ごすうちに、そのイメージは覆された。特に驚いたのが女性の向学心や社会で成功したいという志気の高さである。優れたリーダーシップを発揮して組織や行事を運営していく行動力、英語とコンピュータ技術を駆使し多国籍の人々と社会問題について討論していく国際性、自分と自国に誇りを持ち深くイスラム教に帰依しながらも先進的な考えを取り入れていく柔軟性など、UAE人からは多くのことを学んだ。

2013年5月初、安倍晋三首相によるUAEご訪問の際、日本は今後5年間で500名のUAE人学生を受け入れることが約された¹⁷。UAE人学生の受け入れには上述の点など種々の課題を乗り越えなくてはならないが、両国が学び合い高め合うことができる人的交流が近い将来に築かれることを期待したい。

(注) ウェブサイトの参照日はすべて2013年8月1日

¹⁷ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000004137.pdf>